様式1

平成２４年度　学校評価表

a ミッション	志を持ち未来を拓く子どもの育成	aビジョン　○基礎・基本を大切にし，確かな学力を育む学校　○学ぶ力と遊ぶ力，これらの基本となる力を育む学校　○尾道の魅力と郷土愛を高める学校　○地域と保護者が育て支える学校

尾道市立土堂小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力の向上	授業力を向上させるとともに基礎学力の定着を図る。	国語科・算数科の学力の定着	モジュール授業を含めた国語科・算数科授業の充実	全国学力・学習状況調査と基礎・基本定着状況調査の通過率	平均通過率より＋８以上	＋9.8		123	A	次年度の学力調査に向け，該当学年の基礎学力を全員に確実に定着させることができるように，算数科授業の工夫と放課後の個別指導に取り組んでいる。	3			○目標に沿った評価指標を工夫されることを望む。 ○学力指導の精度の向上を願う。 ○基礎学力とコミュニケーション能力の向上は，自立した人なるために大切なことだと認識している。より高い視点を目指して努力されたい。	○コミュニケーション能力の育成について目指す児童の姿を共有化し，それをもとに評価の指標を作成することでより客観的・具体的な評価ができるようにする。 ○基礎学力の定着を向上させるため，学力調査等をもとに課題を的確につかみ，それに応じた取組を継続的に行う。 ○指導者が思考の深まりを授業の中で組織できるように，どんな思考を，どういう場で，どうやって育んむのか考える力を研修等で向上させる。
		コミュニケーション能力の育成	単元のねらいにそった言語活動の場の設定	児童の観察やノートの記述等が変容した児童の割合	85	75	82	96	B	他者の考えのよさや他者とかかわる学びの心地よさを感じる児童が増えている。思考を高めるための手立てが必要である。	3				
		指導方法の工夫改善による教師の授業力の向上	研究授業の実施と研究協議の充実	授業評価票の評定（４段階評価）の平均値	3	3.2	3.1	100	A	思考の深まりを意識した言語活動の理解は進んだが，思考の場におけるゴールが不明確なため，評価があいまいになっている。	3				
豊かな心の育成	基本的生活習慣の確立と豊かな心を育む。	マナーの定着と奉仕の精神の涵養	気持ちのよい挨拶の励行	習慣化できた児童の割合（児童アンケート）	85	82	84.2	99	B	１学期にあいさつをする姿が定着し，２学期から気持ちのよいあいさつを重点的に目指した。児童によるあいさつ運動やあいさつに係わる生活目標を設定することにより，多くの児童が気持ちのよいあいさつをすることができるようになった。今後は学校外でも気持ちのよいあいさつができるように広げていきたい。	2		1	○「心に響く」について全教職員が共通認識をされることを望む。 ○学校内での挨拶はよくできていると思うが，学校外での挨拶が不十分である。 ○読書の成果と国語の学力との関係を見られることを望みます。 ○読書量と読書貯金とが比例していない状況があるのではないかと思われる。他の評価方法を検討されたい。	○「心に響く」とは，授業後の児童の心情の変化が肯定的になった場合のこととし，教職員間で共通認識を図り，評価の具体化を図り指導につなげる。 ○地区会や修学旅行や社会見学等の校外学習の時間を積極的に活用し通して，学校外での効果的なあいさつの指導を行う。 ○読書量と国語の学力の関係を学年ごとに調べ，改善のための方策に反映する。
			主体的な清掃活動の実施	習慣化できた児童の割合（児童アンケート）	85	72	74.4	88	B	毎週火曜日の美化朝会が定着し，児童は「さしすせそうじ」を合言葉に一生懸命掃除に取り組んでいる。教師も一緒になって掃除に取り組んでいる。	3				
		道徳の時間の充実	心に響く道徳授業の創造	児童の心情変化（児童アンケート4段階）	3.5 ９５	99	99.0	104	A	１０月から評価の表し方を変更した。心情の変化を教師の見取りと児童の自己評価から判断し，肯定的評価９５％を目標値とした。どの学級においてもほぼ全員が道徳の授業を生活に生かしていきたいと肯定的に振り返りをしている。	3				
			校内掲示（心のコーナー）の充実	月１回以上の更新	91	100	77.7	85	B	２学期は２回更新をすることができなかった。学校行事の集中する秋ごろの更新が難しかった。心の掲示コーナー担当者から各学年に計画的に掲示を作成することができるように声をかけてもらう。掲示の内容は，異学年交流，キャリア教育，自己肯定感を育てるものなど，工夫されている。	2		1		
		読書活動の充実	「読書貯金」の実施	学年ごとの目標達成の割合	85	62	67.4	79	C	読書貯金を記入することが定着していない児童がいる。読書の質が偏らないように，学習と関連させてブックトラックの中身を入れ替えたり，市の図書館を利用したりして様々な本に出会えるように工夫している。	3				
健やかな体の育成	健康の増進と体力の向上を図る。	児童の体力・運動能力の向上	体育科授業の充実	新体力テストの県平均を上回った種目の割合	65		46	71	C	男子は握力と立ち幅跳び，女子は握力と反復横とびについては，県平均を上回っている学年が多い。しかし，20メートルシャトルランとボール投げについては，男女とも県平均を下回っている学年が多い。本校の課題であるボール投げの力を高めていくために，２学期から土堂小トレーニングに的当てを組み込んで練習をし，改善を図っている。	2	1		○体力の面では全国平均を下回っていることが多いことに驚いた。今後の取組に期待する。 ○体力については，生活環境の影響も大きいので，平均との差を気にしすぎる必要はない。 ○身体のバランス(体の使い方等)に課題がある児童に対しては，どのような指導をするのか考えて欲しい。外部人材の活用も考えると良い。	○今年度から土堂小トレーニングに新しく入れた「的当て」を引き続き行う。 ○ソフトボールの正しい投げ方を職員が研修して児童に指導するとともに，テニスボールなどを使って遠投の練習をさせる。 ○多様な動きをつくる運動を授業の中に取り入れる。
		基本的生活習慣の確立	「早寝早起き朝ごはん」の徹底	習慣化できた児童の割合（児童の自己評価）	90	81	78	87	B	９月と１月に実施した実態調査の結果を分析し，個別指導や保護者啓発を行った。今後も就寝時刻が早くなるように継続した取組を実施していく必要がある。	3				
信頼される学校	コミュニティスクールの実践を進化させる。	学校情報の積極的な発信	ホームページによる学校の取組みの発信	年間のＨＰの更新回数	250	117	263	105	A	更新回数は目標値を上回っている。学校の取組を積極的に発信するため，今年度新たなコンテンツを導入した。	3			○ミッションステートメントを強く意識されていることに敬意を表する。 ○ホームページは，どこに出しても恥ずかしくない内容だと思っている。信頼される学校であることは確かである。	○今年度新たに始めた研究内容と経過のＨＰへの掲載を継続し，その質を上げる。 ○生活科や総合的な学習の時間以外においても，地域や保護者の教育力を積極的に活用するよう工夫する。 ○ミッションステートメントの実現に関する保護者及び児童アンケートは，学校運営協議会のものに一本化し，その継時的変化をみて，学校経営に活かす。
		地域の教育力を生かした教育活動の推進	地域人材・素材の計画的な教育課程への位置づけ	年間計画の実施率	100	106	105	105	A	年間計画以上の時数の授業を行っている。	3				
		ミッションステートメントの実現	教職員間でのミッションステートメントの共通理解	保護者評価５段階３以上の割合（保護者アンケート）	90	94 (10月)	94	104	A	拡大達成率は94％であり，目標を達成している。	3				

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。